



学生が考える！

Vol.6



都留市の企業×SDGsの未来

地域と協力しながら福祉のまちづくりを目指す

問合先 企画課 企画担当

SDGsに取り組んでいる市内企業を都留文科大学学生が実際に訪問・取材し、皆さんに紹介！第6弾は住民ボランティアや関係団体と連携し地域福祉活動を推進している(福)都留市社会福祉協議会（以下、社協）に学生が迫ります。



1. 地域の福祉活動の拠点として

社協は地域福祉の向上を目指し、ボランティア活動の推進、福祉サービスの提供、困りごとを抱えている方々の相談支援を行い、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献しています。

例えば、高齢者のいきがい創出と社会参加促進を目的とした仲間づくりの場「ふれあい・いきいきサロン」やペットボトルキャップの回収、車いすの貸し出しなどの福祉活動に取り組んでいます。



▲ペットボトルキャップ2kgでポリオワクチンの購入費に変わる。車いすは1カ月無料で借りることができる

2. 福祉の心を育む教育活動

10月には高校生災害ボランティアスクールを開催しました。搬送訓練や高齢者疑似体験、聴覚障がい者避難誘導訓練などを行い、災害時に高校生にもできることを学び、実践に役立ててもらうことを目的としています。

小・中学生には福祉教育ハンドブックの配布を行い、当事者からの話を聞くことで、自分の周りにも大変な思いをしている人がいることを知ってもらい、思いやりの心を育むことで誰一人取り残さない社会を目指しています。



▲毛布を使った搬送訓練や肢体の可動域や視覚・聴覚・触覚に制限をつけ、高齢者疑似体験に取り組む都留興譲館高等学校の一年生たち。

3. ボランティアをつなぐ、支える

社協はボランティア活動をしたい人、支援を求める人をつなぐ役割も担っており、希望者から要望を丁寧に聞き取ってマッチングしています。災害時はボランティアセンターを設置し、ボランティアの受付と派遣を行います。土砂の掃き出しや家財の運び出しのほか、被災住宅を1軒1軒訪問し、必要な支援を聞き取った上でボランティアを派遣するなど、被災者の心に寄り添うことを大切にしながら活動しています。

学生からの一言

高齢者のボランティア活動は、外に出て人と出会い、考えながら体を動かすため、介護予防の効果を期待できます。若い頃からボランティア活動に親しむことで、高齢になっても積極的に参加しやすくなるため、近藤さんは「若い人にもぜひ参加してもらいたい」と話されていました。社協のHPやSNSのDMでも問い合わせを受け付けているので、私たちもこれを機にボランティアに参加して、都留をもっと元気にしていきたいです。

取材者：都留文科大学生 平松 敬汰郎、渡辺 さやか



取材先：(福)都留市社会福祉協議会
(都留市下谷2561-1)
近藤 史崇

ボランティアの
問合せはこちらから▶



HP



Instagram

(福) 都留市社会福祉協議会のSDGsのポイント



3.すべての人に健康と福祉を
誰もが安心して健康的に暮らせる社会に貢献



4.質の高い教育をみんなに
若い世代の思いやりの心を育み、地域を支える人材を育成



11.住み続けられるまちづくりを
住民間の連携を促進し、地域コミュニティの機能を強化

都留市ではSDGs宣言事業所を
募集しています。

「都留市SDGs宣言事業について」市HP▶

取材協力：地域活性化起業人
宮川清希(㈱ニコン日総プライム)

